

Modern London; being the history and present state of the British metropolis.

London, printed for Richard Phillips, 1805. (文献番号11-69)

ロンドン当今；その歴史と英国首都の現状

英国の首都、ロンドンの19世紀初頭の街の様相が、銅版画による描写を取り入れながら、ロンドンの歴史とともに記述されている。

1805年にロンドンで印刷刊行されたが、作者は不明である。銅版画53枚のうち、31枚が手彩色によるロンドンの呼び売りの日常姿の描写で、背景に著名な広場や建築を描き、解説とともに巻末にまとめられている。残り、22枚は無彩色で、本文に挿入されているが、建物の光景が中心になっている。

初めに、刊行の主旨を広告(Advertisement)というかたちで述べている。それによると、この出版は、ロンドンの正しい知識が各国へ伝えられることを望んでいる外国人のために、一般的ではあるが、魅力ある形式で取り組まれている。過去の歴史家たち、たとえば、メートランド(William Maitland 1693?-1757)やペナント(Thomas Pennant 1726-1798)などには見いだすことのできない、首都の実際の現状に関する事実が述べられている。メートランドのは、あまりに好古学的であると同時に一般的な読み物としては冗長にすぎ、一方ペナントのは、ロンドンに関する系統的歴史というより、人間や場所の収集である、ということが出来る。これらの作品はそれぞれ固有の価値があるが、一般の読者が感銘するような脚色もなされていないし、ロンドンの現状を表してもいない。

ロンドンの歴史については、ここでは序文が付され、優秀な著述家たちやすぐれた好古学者によるオリジナル原稿をもとに編集されている。

これらの図版は、説明されている場所や情景の忠実な描写となり、以前には試みられることのなかった方法で、首都、ロンドンの精髓を表わしている。

内容は、① ロンドンの歴史、② ロンドンの一般的記述、③ 首都の風習と治安の現状、④ 病院とその他の公共慈善事業、⑤ 司法および法律上の裁判所と制定、⑥ 王宮、公園、その他の国家や政府の付属物、⑦ ロンドンの商業および貿易、役所、公共商業建物、⑧ 監獄、⑨ 建築、公共および民間建物、広場、彫像、⑩ 学会、文学、文学雑誌、⑪ 娯楽、劇場、音楽的・演劇的興行、⑫ 美術の様相と風習への関連とのその影響；公的および私的収集と公共展覧会、結び、図版解説、一覧表の付録、索引となっている。

巻末の図版の「呼び売り」は、野菜や果物、肉や魚などの食料品、日用品、衣料品、さまざまな職業の売り子が描写されている。

図左の「古着屋」は、ロンドンでも最も美しい広場のひとつである、フィッツロイ広場を背景に描かれている。

古着屋たちは、商いを独占しているユダヤ人や主人の脱ぎ捨てた衣服で臨時収入を得るのを

許された使用人たちに混って、早朝の往来にいた。12時になると、古着商人たちは、彼らが朝、買い入れた品物をタワーヒル（Towerhill）付近の、俗にぼろ市と呼ばれるローズマリー（Rosemary）横小路で毎日催される定期市に運んだ。そこでは、店を持っている他の商人たちに売ったり、物々交換をした。そして、作り換えたり、修繕したりして再び、人々に販売した。市の時間のローズマリー横小路は、これ以上のにぎやかな光景を想像することはできない。市に通じる広い通りや並木道は、男女の売り買いの人々でほとんど通れないくらい群っていた。

図右の「室内ばき売り」は、ストランド（Strand）街南側に建てられた、サマセット・ハウスを背景に描かれている。サマセット・ハウスは、サー・ウィリアム・チェインパーズ（Sir William Chambers 1726—1796）によって設計され、海軍省、政府軍需部、王立美術院を始め、さまざまな行政関係の省庁や団体の本部として建てられた。図は、アーチ形の柱廊を抜けて、2本の歩道と馬車用の中央門に囲まれた入口の西側を示している。図の右手の窓は、王立美術院に属する続きの室のひとつである。

図の中のトルコ人はいきいきと描写されている。民族服を着用し、長い年月、ストランド街、チープサイド（Cheapside）、コーンヒル（Cornhill）では、取引の時間の間、モロッコ製の室内ばきを売っていた。これらの主な通りでは、通常、歩くのを制限していた。ロンドン取引所のまわりには、ユダヤ人たちがおり、習慣として非常に執拗だった。一方、尊敬すべきトルコ人は、室内ばきを見せるのに誘いをかけたりはしなかった。彼らは、1シリング6ペンスで売り、1組については、2シリングで売り、ほとんどの色とサイズを取り揃えていた。

（佐藤 俊）

